愛知一中・旭丘高校バスケットボール OB・OG 会　**会報**　第46号　2020 年 7 月 10 日発行
http://www17.plala.or.jp/abbcobog/

新しい時代へ繋ぐ

磯谷　桂介（旭丘 30 回生）

コロナ禍は人類社会に対する強烈な衝撃となった。OBOG 諸氏もそれぞれが厳しい状況に直面している。特に、医療・福祉関係従事者や生活必需品を含めインフラを懸命に支えている方々のご尽力に心より敬意を表したい。また、現役の皆さんも長期に亘る休校、インターハイを始めスポーツ・文化イベントの中止・延期などによって辛い思いをされていることだろう。

残念ながら今年の四校リーグ OBOG 戦も中止、現役戦は延期となった。拙稿が会報掲載される夏頃の状況は予測できないが、決定的なワクチンや治療薬が開発されない限り、市民一人一人が新型感染症に屈すること無く、それと共生する「新しい日常」を選択せざるを得ない。「三つの密」を避け社会的距離を保つことが前提となる。

一方、他者との物理的接触を避けるだけでは、疎外状況となり人間性が崩壊する。ICT 環境において人と人が繋がる機会は急増し、これに関連するビジネスも興隆する。

会報発行や財政的支援などの OBOG 会の活動も、現役の皆さんと OBOG を繋ぐという意味で極めて貴重な営みだ。運営に当たる服部敦先輩（29 回）はじめ歴代役員の方々に感謝申し上げたい。

思えば我々30 期が現役の頃、服部保孝先輩（25 回）、網岡・西原先輩（28 回）などに OBOG 戦等を通じてご指導頂いた。指導教官の荒川宏先生と故松下一郎先生からはゾーンプレスなど当時の新戦法もご教授頂いた。それらのおかげで、3 年時に男女とも県大会出場（1977 年）を果たした。（もっとも 2005 年会報で若山先輩（18 回）が「今年は男女アベック県大会出場を果たした。初めてのことと思う。」と書いておられたのは少しショックだったが（笑））

現役生と OBOG が部活動を通じて長年に亘り繋がる愛知一中・旭丘の良き伝統を、新しいウィズ/アフターコロナ時代においても決して絶やしてはならないと思う。

四校リーグ中止　並びに　OBOG総会の延期について

例年　夏に開催しております「四校リーグ」ですが、昨今の情勢を鑑み、今年は「OBOG戦」を中止いたします。
ただ、「現役戦」につきましては、現役の試合が減っていること、またできれば伝統ある四校リーグを存続させていきたい意向もあり、情勢をみながら延期させていただきます。
次年度は、また通常通り開催したいと思いますので、ぜひご参加ください。
また、四年に一度、四校リーグ終了後開催しております「OBOG会　総会」ですが、来年に延期したいと思います。
本来は、総会時に　役員改選を行うのですが、規約では「役員は総会の承認を得て決定する」となっております。
役員改選につきましては特例ですが、今年度は行わず1年間留任させていただきたいと思いますので、
よろしくお願いいたします。

OBOG会　会長　服部　敦（29期）

新チーム紹介

＜男子バスケ部キャプテン＞

1 年 9 人、2 年 10 人、マネージャー2 人の合計 21 人で活動しています。昨年度に引き続き、井口先生にご指導頂きます。僕はより良いチームをつくるためには、チーム全員がそれぞれの力をチームに還元することが大事だと思っています。例えばハードな練習で声出しをしたり、自分の持つ技術をチームメイトに教えたりするなど、自分が持っているものを内に秘めておくのではなく、それらを練習の中でお互いに表現してチームに還元することで、チームの結束が高まると思います。そして僕は、僕達旭丘男子バスケ部がそれを遂行できると思っています。
チーム一丸となって全力でバスケに取り組みます。応援よろしくお願いします。

＜女子バスケ部キャプテン＞

今年度は新たに 6 人の 1 年生が加わり、プレイヤー 9 人 マネージャー 2 人全員で力を合わせて日々練習に励んでいます。小島先生の熱いご指導の下、昨年は ALL AICHI で県大会(2 次トーナメント)に出場することが出来ました。プレイヤーが多くないことに加え、今年は改修工事の影響で鯱光館が使用出来ず、例年と比べて厳しい状況ではありますが、限られた活動場所と練習時間の中でチームとして大きく成長していけるように、責任を持ってチームを引っ張っていきたいと思います。背が高いプレイヤーはいませんが、個々のスキルを存分に活かしたチームプレーと走力で他校のチームに対抗していきたいと思っています。『応援されるチーム』を目標に、部員一同モチベーション高く練習に励んでいきますので、今後ともご支援どうぞよろしくお願い致します。

令和元年度の戦績（得点は旭丘が左側です）

		男子			女子		
年	大会名	回戦	対戦相手	得点結果	回戦	対戦相手	得点結果
元年	市内県立	1回戦	惟信	６５－４２	1回戦	熱田	５６－７６
		2回戦	熱田	７２－５２			
		準決	千種	５７－７５			
		3決	松蔭	５８－６４			
	オール名北	中止（酷暑の為）			中止（酷暑の為）		
	四校リーグ		菊里	５８－６６		明和	５３－７５
			向陽	４２－６１		向陽	４６－４２
			明和	４４－４１		菊里	７１－９０
	市民スポーツ祭	1回戦	名古屋工業	４２－７５	1回戦	愛み大瑞穂	３５－６０
	ALL　AICHI	1回戦	山本学園	１０１－３９	1回戦	愛知啓成	２０－０
		2回戦	中央	１００－４４	2回戦	名経大市邨	８４－４６
		3回戦	愛工大名電	５２－９６	3回戦	豊田北	５９－５５
					2次1回戦	名女大	３７－１６７
	AZA 定期戦		熱田	８９－７４		熱田	６７－９１
			瑞陵	８０－５０		瑞陵	７５－６３
２年	新人戦	1回戦	高蔵寺	５６－５１	1回戦	春日井商	８７－５６
		2回戦	愛工大名電	７２－９０	2回戦	名古屋西	４７－７２
	総合体育大会	未定			未定		

昨年、四校リーグは70周年を迎えました。中日新聞の記事になりましたのでご紹介します。
（記事中で、超OBは50歳以上となっておりますが、実際は40歳以上です）

2019年8月15日　中日新聞　（第3種郵便物認可）

バスケ4校リーグ 70周年

戦後の学制改革を機に生まれた対抗戦で、旭丘、明和、菊里、向陽の４高校バスケットボール部の生徒とＯＢ・ＯＧが参加する「４校リーグ」が70周年を迎えた。今年は10、12の両日、天白区植田の天白スポーツセンターで開かれ、現役生と卒業生が世代を超えて交流した。（水越直哉）

旭丘、明和、菊里、向陽高 旧愛知一中の縁、世代超え交流

旭丘、明和、菊里、向陽高のバスケットボールリーグ戦で、熱戦を繰り広げる50歳以上のＯＢたち＝天白区の天白スポーツセンターで

四校のバスケ部は「愛知県第一中学校籠球部」をルーツとする。愛知一中の生徒は一九四八（昭和二十三）年の学制改革で、居住地によって四校に分かれて通うことになった。籠球部メンバーもやむを得ず別々の高校に通ったが、元は一緒に県優勝を目指した仲間たち。交流を続け、力を高めあおうと学制改革の翌年、四校リーグが創設された。

例年、四校リーグは遠方からでも参加しやすいようにお盆の前に開催。ルーキー、現役、ＯＢ・ＯＧ、超ＯＢ（五十歳以上）の各部門に分かれて対戦する。

今年の試合では、年齢を問わず、母校を応援する姿が見られた。ＯＢたちの戦いでは、現役の生徒から応援歌や「いいぞっ、いいぞっ」などの声援が飛んだ。白髪交じりの選手があざやかな3点シュートを決めると「負けてられないな」と漏らす若い選手もいた。

明和高二年の　さん（七）は「ＯＢと会える機会は少ない。年齢を感じさせないプレーは刺激になった」と話し、明和高ＯＢ会長の　さん（八〇）は「どうして七十年も続いてきたのか不思議。ただ、みんなバスケが好きで後輩の頑張りを見るのも楽しい。これからも続けたいし、続けてもらいたい」と願った。

今年の四校リーグは向陽が男子を、明和が女子を制し、菊里が総合優勝した。

愛知一中・旭丘高校バスケット部 OB・OG 会会計報告

令和元年年度決算報告
（平成 31 年 4 月 1 日～令和 2 年 3 月 31 日）

(1)収入の部

年会費	426,000
利息	5
前年度からの繰越金	808,708
名簿作成準備金より(一般会計に統合)	153,299
合計	1,388,012

(2)支出の部

通信費	73,882
印刷費	41,958
事務費	4,210
会議費	29,500
事業補助費(四校リーグ、新年会等)	168,554
現役補助費	89,453
次年度繰越金	980,455
合計	1,388,012

令和 2 年度予算
（令和 2 年 4 月 1 日～令和 3 年 3 月 31 日）

(1)収入の部

年会費(約 200 名分)	400,000
利息	5
前年度繰越金	980,455
合計	1,380,460

(2)支出の部

通信費	80,000
印刷費	50,000
事務費	10,000
会議費	50,000
事業補助費(四校リーグ、新年会等)	250,000
現役補助費	300,000
繰越金	640,460
合計	1,380,460

会費の納入は同封の振込用紙で１口 1,000 円です。できれば２口以上お願いします。
なお、新年会等の会場で現金での会費納入も大歓迎です。

＜2019 年四校リーグ＞　超OB戦メンバー

＜2020 年新年会＞